

学習内容報告書 フォーマット

学校名	八戸市立大久喜小学校
授業者	熊谷 一

1. 単元計画

1-1. 単元名

大久喜の宝・海～ウニの生態を通して～

1-2. 学年

5年生

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間 社会科 理科

1-4. 単元の概要

- ウニの殻剥きをし、食べる活動
 - これまで行ってきたウニの殻剥きの活動を通して、ウニの生態に興味をもたせる。
- ウニの生態を調べる活動
 - 書籍を利用したり、タブレット端末を使用しインターネット検索を行ったりすることにより、ウニの生態を調べ、理解を深める。
- ウニを育て、観察する活動
 - 漁港で採取したウニを実際に飼育し、これまで調べたことを検証する。
- 大久喜の海の環境を調べる活動
 - ウニが育つ環境にある大久喜の海（漁港や海岸）の水質や地形、生育する生物の状況を調べ、自分たちの身近な海の現状と問題点を考える。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

大久喜地区はウニ漁が盛んである。ウニ漁が行われる時期になるとウニの殻剥きを行っている家庭が多く、児童も殻剥きの手伝いを行っている。しかし、ウニの生態についてはほとんど知らない事ばかりである。大久喜の海の恵みであるウニを通じた探究活動を行い、海との関わりを考えさせる中で、主体的に学習活動を進めていくための単元開発を行うことで、積極的に海とかかわっていく心情を育みたい。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ウニの体のつくりや生態について興味をもつ。
- ウニを飼育する活動を通し、ウニの生態について調べたことを検証する。
- ウニの生態と大久喜の海の環境を主体的に調査し、両者を関連づけて考える。
- 大久喜の海に誇りと愛情をもち、いつもでも大切にしようという心情を養う。

1-7. 単元の展開（全38時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
2	○ウニの殻剥きを体験する。	○ウニが何を食べて成長しているか殻の中を観察させる。 ○今年のウニは実入りが少ないことに気づかせる。 【連携】大久喜・法師浜漁業生産部会
20	○ウニの生態を調べる活動をする。 ・タブレット端末やパソコン、書籍を使い、ウニの生態について調べる。 ・様々な方法でまとめ、発表をする。	○まとめ方、プレゼンの仕方についての方法を教える。(冊子、リーフレット、ポスター、プレゼンソフト等) 【評価】必要な情報を取捨選択しながら集めることができる。 相手に伝わりやすい発表をする。
4	○漁港で採取したウニを実際に飼育し、調べた生態についての検証をする。	○自分が調べたことと観察して分かったことを比較し、差異の有無を明らかにして、生態について新たに調べたいことの動機づけとする。
4	○種市ウニ栽培漁業センターを見学し、ウニの成長や飼育の方法について学習する。	○種市ウニ栽培漁業センターを見学し、ウニの育ち方や飼育の方法について学ばせる。 【連携】種市ウニ栽培漁業センター
4	○ウニの飼育を通して、生態についての新たな疑問を見つけ、それぞれの観察方法を考案し、問題を解決する。	【評価】ウニの生態について新たな疑問をもつことができる。 問題を解決するための観察方法を考え、実際に観察をして問題を解決しようとする。
4	○大久喜の海の地形や生育する生物の状況を調べ、大久喜の海の現状と問題点を考える。	【評価】大久喜の海の現状をまとめ、環境への理解を深めることができる。

2. 学習活動の実際

2-1. 単元における位置づけ

単元 38 時間中の 32, 33 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

ウニの飼育を通して見つけた生態に関する新たな疑問を、自分たちで考えた方法を用いて検証することができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 ウニの飼育を通して見つけた新たな疑問やその検証方法を確認、共有する。</p> <ul style="list-style-type: none">・ウニはどのぐらいの速さで移動するのか。・ウニは暗くて狭い場所を好むのか。・ウニはどんなものを好んで食べるのか。	<ul style="list-style-type: none">・リーフレットにまとめたものを掲示し、グループごとに確認し合う。
<p>2 自分たちの考えた方法で検証し、記録する。</p> <ul style="list-style-type: none">・ビデオ撮影を行う。・タイムラプス動画の撮影をする。・仕切りを用いて水槽内の環境を人口的に変化させる。・数種類の餌を用意して捕食するまでの時間を調べる。	<ul style="list-style-type: none">・自分たちの予測と比較しながら観察や記録をすることができるように、記録用紙を配布し、機材使用の支援を行う。 <p>【評価】 自分の予想と比較しながら正確に観察し、記録をとることができる。</p>
<p>3 検証方法について適切であったか話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none">・狙っていた通りの検証結果が得られたか、得られなかった場合はどのように改善していけばよいのかを話し合わせる。 <p>【評価】 自分たちの考えた検証方法を適正に評価することができたか。</p>
<p>4 発表の方法を考え、観察結果をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none">・レジュメをもとに・冊子形式にして・プレゼンソフトを使用して	<ul style="list-style-type: none">・それぞれの実験結果に適した発表の方法になるようにまとめ方を助言する。

3. 今回の活動の自己評価

今年度の1学期は新型コロナウイルス感染症対策で、主に校内での調べ学習に時間を割いた。その中でも漁業生産部会や民俗保存会から協力をいただき、ウニに関する体験的な学習を進めることができた。

特に、地域のイベントと関連させてウニを取得し、実際に育てる活動を行ったことで学習に深まりをもたせることができた。自分たちで調べたことをもとに飼育したウニがほどなく死んでしまったことから、専門家から助言を受けて新たに飼育活動を行ったことで、自然に対する理解を深め、命を大切にすることを育てるとともに、自分なりにより良く探究課題を解決し、主体的に取り組んでいく態度を育成することができた。

コロナ禍での実施だったが、関係機関との連携の在り方を工夫し、体験的な活動につなげることができたのは大きな成果であったと考える。

4. 今後の課題

ウニの文献や資料は思ったよりも多くなく、調べ学習に活用できるものを準備するのが難しかった。また、今回のまとめを冊子やレポートづくりとしたが、広く情報を発信する場を設定することができなかつたので、妥当であったかどうかの検討をしていくことが必要である。また、今回の成果を来年度の活動に引き継ぐため、年間指導計画に他学年との関わりや連続性について考慮しながら適切に位置付けていく。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特記事項無し

※実施した单元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。